

令和4年11月28日

1. 出席議員

議長	吉川里己	副議長	松尾初秋
1番	古賀珠理	2番	山崎健
3番	毛利清彦	4番	中山稔
5番	江口康成	6番	吉原新司
7番	朝長勇	8番	豊村貴司
9番	上田雄一	10番	古川盛義
12番	池田大生	13番	石橋敏伸
15番	末藤正幸	17番	山口昌宏
18番	牟田勝浩	19番	杉原豊喜
20番	江原一雄		

2. 欠席議員

なし

3. 本会議に出席した事務局職員

事務局長	川久保和幸
次長	山口美矢子
議事係長	奥幹久
議事係員	木寺裕一朗
総務係員	佐々野理子

4. 地方自治法第121条により出席した者

市		長	小	松		政
副	市	長	北	川	政	次
教	育	長	松	尾	文	雄
総	務	部	山	崎	正	和
総	務	部	諸	岡	利	幸
企	画	部	庭	木		淳
営	業	部	古	賀	龍	一 郎
営	業	部	黒	尾	聖	洋
福	祉	部	松	尾		徹
福	祉	部	後	藤	英	明
こ	ど	も	秋	月	義	則
こ	ど	も	諸	岡	智	恵
ま	ち	づ	野	口	和	信
環	境	部	山	口	智	幸
総	務	課	江	上	新	治
企	画	政	弦	卷	一	寿
財	政	課	藤	井	喜	友

議 事 日 程 第 4 号

11月28日（月）9時開議

日程第1 市政事務に対する一般質問

令和4年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順番	議 員 名	質 問 要 旨
9	2 山 崎 健	1. 治水対策について 1) 特定都市河川指定について 2) 被災地の復興計画について 3) 復興プラン（保険・共済の補助）について 4) 志久地区（掛橋・追分）の河川整備について 5) 水害地区以外の造成に対する治水対策について 6) 北方運動公園の整備について 2. 観光について 1) サイクルトレイン計画について 2) タケさんぼについて
10	9 上 田 雄 一	～武雄市の今後の方向性について～ 1. まちづくりについて 2. スポーツ振興について
11	16 松 尾 初 秋	1. プラゴミについて 2. 野焼きについて 3. 公共下水道について 4. 市役所庁舎について 5. 防災情報発信システムの訴訟について 6. 教育について 7. 新幹線について

開 議 9 時

○議長（吉川里己君）

皆さんおはようございます。休会前に引き続き会議を開きます。

11月24日の18番牟田議員の一般質問に対する答弁の補足の申入れが執行部からあつておりますので、ここで発言を許可したいと思います。山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

おはようございます。11月24日の牟田議員の一般質問で、猫の避妊・去勢手術補助金の流用について答弁した件で、分かりづらい表現をしましたので、補足説明をさせていただきます。

流用の対応をすべきではないかというお尋ねで、「他の市の補助金にも影響がある」と答弁しておりますが、意味としては、「武雄市の別の補助金にも影響がある」という意味でございます。

補足説明とさせていただきます。

○議長（吉川里己君）

日程に基づき市政事務に対する一般質問を始めます。

それでは、最初に2番山崎議員の質問を許可いたします。御登壇を願います。2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきました2番山崎健、一般質問を始めます。

現在、世界ではサッカーワールドカップで大変盛り上がっております。日本代表も一生懸命頑張っております。ドイツ戦では一丸となり勝利を収めましたが、昨日のコスタリカ戦では一瞬の隙を突かれたか、敗退してしまいました。

現在、武雄市においても解決しなくてはいけない問題が山積みです。気を緩めず、気を引き締めて解決していかなくてはいけないと感じたところでありました。

新人議員ではありますが、私の指針である、人と人のつながりを大切に、感謝の気持ちを常に忘れずに、おのれを顧みて常に前進。この三条の心得を忘れずに、安心して住めるまちづくりを目指して議員活動を頑張っていきたいと思っております。

武雄市の大きな課題の一つとして、2度の水害からの復興、そして、治水対策があります。毎回、私も一般質問では取り上げておりますが、現在、待ったなしの状況です。令和5年度の出水期までにできるだけ対策を立てて実行していかなくてはならない。皆さん力を合わせ精いっぱい頑張りましょう。

それでは、1つ目の質問に入ります。

今日はこの2項目、治水対策について、観光について質問をしていきます。

最初の質問ですが、特定都市河川の指定について。

この質問は、先週、豊村議員や池田議員のほうからも質問が出て、答弁をいただきました。私もこの特定都市河川指定については、賛成の立場から質問をしていきたいと思っております。

まず、この制度では、起点をどこに置くかということが基準になってきていると思いますが、水害地区以外でもこの特定都市河川指定の範囲に入るのかについて御質問をいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

おはようございます。特定都市河川の起点ということになりますけど、11月29日の第5回の六角川流域治水協議会において、どの市町、どこまでの市町がこの指定に向けて動くかということになりますが、例えば武雄市だけが指定を受けるとなると、単純に言えば、武雄市と大町町の境から上流部域全てに指定が入ります。六角川本川及び県河川などの支川についても範囲が全部入りますので、今の水害地域以外のところについても全てが指定の範囲というふうになります。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

その指定についてですが、いつ頃の時期を考えていらっしゃいますか。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

先ほど申しましたとおり、11月29日の六角川流域治水協議会の中で協議されると思います。その後、いろいろな事務手続を経まして国交大臣のほうから指定を受けますが、明確な時期的にはまだ定かではございません。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

この起点をどこからどこに置くかということで範囲が決まってくるということではあります。このデメリットという面でお尋ねいたしますが、開発に抑制がかかると、住民には影響がないという、先週、部長のほうのお答えをいただきましたが、私が考えるには、開発抑制がかかることにより、現在進行中の計画、予定、これが遅れたりとか、延期になったりするのではないかとということが考えられるかと思いますが、また、都市計画にも影響が出てくるのではないかと思いますけど、その辺についてどのようにお考えですか。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

特定都市河川に指定されますと、開発の面積によりましていろいろ貯留施設とかなんとかを造る必要が出てまいります。このことによりまして、幾分かは開発に対する抑制とかが出てくるかと思いますが、ここにつきましてはしっかりと今後、補助金制度とかを丁寧に説

明しながら、開発に歯止めがかからないような進め方をしてまいりたいと思いますし、住民に対しましては、このことについてのデメリット的なものは全くないというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

これを指定を受けることによって、そういう抑制がかからず今の計画中の都市開発についても並行して進められるよう、考えながらやっていただければと思います。

続きまして、先ほども市民の影響はないということでしたが、網をかけられる、指定を、抑制をかけられることによって、土地の価格、こういったものに影響はないのかちょっとお尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

指定受けたことによって土地の価格に影響は、今のところはないものと考えております。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

この2度の水害によって、被災した場所はかなり土地の価格も下落して、人々も移転している人が多く出てきておりますので、これ以上影響がないように十分協議していただきたいというふうに考えております。

先ほど言いましたとおり、私も特定都市河川の指定については反対ではありませんが、メリットだけでなく、デメリットも考えながら実行する必要はあると思います。

私たち被災者は一日でも早く水害が来ないまちにしてほしいと日々思っております。その思いは市長をはじめ、市民皆様も同じ考え方だと思っております。武雄市にとって一番の方法、それで進めていただきたいと考えております。

市長、これに対して一言お願いします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

おはようございます。水害のない安心して暮らせるまちづくり、これは住民みんなの願いであると私も思っております。

治水対策については、今、取り組んでいますけれども、やはり今の取り組んでいるものだけでは十分ではない。まだ床上浸水が残る地域も多数あると。このままではいけない、さら

に手を打っていかねばならない。そして、床上浸水ゼロの道筋をできるだけ早く示すということが大事だと思っています。

治水対策は1日や2日でできるものではありません。ただ、一方で、いつまでに何がどうできて、そして、その効果がどれくらい出るのか、こういったことをできるだけ早く示すということが、やはり住民の皆さんの、ここにこれからも住もうという希望にもつながってくると思います。そういう意味で、できるだけ早く道筋を示していきたいという思いであります。

その一つの大きな、やはりツールがこの特定都市河川だと思っています。

これには、おっしゃるとおり、あめとむちがあります。やはり大規模な調整池などを今後考えていく上では、市だけではできない、国の助けが必要。そのためにこの制度が、私は不可欠だと思っています。

一方でむち、むちもやはりできるだけむちは短く、そして、柔らかくしていかなければならないと思っています。ここの補助制度は国もありますし、私たちもしっかり考えて影響をできるだけ小さくしていきたい。それでも、そういうむちがあるけれども、それでも今やらなければならないのが治水対策であり、この制度の指定だと思っています。

そういう気持ちでやっておりますので、今、ため池の活用、できることはさらに最大限活用しつつ、この特定都市河川の指定をできるだけ早期にしてもらって、そして、床上浸水ゼロの道筋をとにかく早く住民の皆さんにお示ししていきたい。そして、安心につなげていきたい。北方町であれば、まちの復興やにぎわいにつなげていきたいと考えています。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

今月、市長のほうから、今日の答弁以外でも、国のほうに喉をからしながらこの水害対策を訴えられておられますよというお話も聞きましたし、武雄市代表団で国への要望活動も行っていたいております。

私たち被災者にとって、これが一番の頼りになっているところであります。私たちも日々頑張っていますので、これからもよろしくお願ひしたいと思っています。

次に、武雄市創造的復興プラン。

いま一度、私もこの復興プランを見させていただきました。この復興プランによって、ここに書いてありますように、「誰もが安心して住み続けられ、新たなにぎわいが生まれる創造的復興」という言葉があります。

現在、武雄市については、復興プランがここに書いてありますが、ため池を治水に最大活用するという件では、調査を行い、53か所のため池を10%から50%水位を下げ、72万トンから90万トンの水がめを造ることが実行されております。田んぼダムやハザードマッ

プの整備等についても順調に進んでいるんじゃないかと思います。

でも、これからこの先何をするかというのが、やっぱり一番大事なところであるんじゃないかと思います。先ほどの特定都市河川の指定というのも一つの方法でありますし、令和5年度の出水期を迎えるまでに、市として、そのほかのことで何か実行していこうと、そういう計画があるのかお尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

議員御紹介いただきました新・創造的復興プランの中に、まだしていない部分も十分ございます。すぐできることについて早急に、国、県と共に協力してやってまいりたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

何をやるのか、何がやらなければいけないかということもありますが、何ができるかと、できることをとにかくやっていこうという気持ちが私は大切だと思っておりますので、いろんな協議を抱えながら、武雄市だけでなく、六角川流域治水協議会というのもございますし、協力し合って復興ができるように頑張っていきたいと思っております。

それともう一つ、治水シンポジウムも今年やろうというふうに予算も上がっております。これについては通告もしていなかったんですが、内容のあるシンポジウムを早く開催していただけるように切にお願いしたいと思っております。

続きまして、ちょっと細かいんですけど、次の質問に入ります。

この復興プランの中に、ちょうど保険や共済への加入促進（未加入者への補助など）という欄がありますが、この辺についてちょっと具体的な説明をお願いしたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

おはようございます。保険、共済の補助に関する御質問ですが、水害による住宅の損害を補償する保険や共済への加入促進は、住宅が被害を受けた場合、速やかに住宅再建ができる有効な手段だと考えております。

そのため、住宅の火災保険未加入者に対する支援制度の構築に向けて現在、準備を進めているところでございます。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

未加入者への補助という案で、今、ちょっと説明がなかったのですが、これは未加入者全
ての人に対して補助をするのか、それとも限定してされるのか、その辺についてはいかがで
しょうか。

○議長（吉川里己君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

これにつきましては火災保険や地震保険が基本にありまして、オプション保険としての水
災保険としての加入と考えております。

未加入者への支援、新規加入者に対するの対応ということで考えております。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

この制度については、また、新しいその未加入者への補助ということでは、詳しい内容が
市報か何かで報告されると思いますけど、できるだけ皆さんが、保険に入っていなかった、
何も出なかったという方が満足されるような内容をぜひつくっていただきたいと思います。

続きまして、北方運動公園の整備というところに、質問に入ります。

この公園の整備、この公園は水害に遭った場所でもありますが、この公園を整備して、相
撲場を移転しようという計画もここにあると、相撲場ですね——これが公園の全体図になり
ますがね——あります。

ここに5反ほどの民間の土地もありますが、この土地の全体を利用して、全部の面を利用
して、武雄市で活用をしていくようなことは考えられないかと思えますけど、これについて
御質問いたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

北方運動公園付近につきましては、議員御指摘のとおり、前回の水害にも遭っております
ので、今後の相撲場を含めた水害対策については十分考慮しながら考えていきたいというふ
うに考えております。

議員御提案の私有地を含めました整備につきましては、今後、施設利用者や地元の皆様、
土地所有者の御意見などを踏まえながら検討をしていく必要があるという認識でございます。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

北方地区を中心に、北方はこの運動公園中心に、本当、水害に遭った場所です。道で2メートルほどの水が来ておりますので、この地域にも結構な水が浸水したと考えられております。

極端な発想ではありますが、ここを全体整備してかさ上げをしたりすることによって、いろいろな利用価値が生まれてくるんじゃないかと考えます。例えば極端な話ですが、宅地にでもできるんじゃないかというふうな考えもあります。

現在、北方町の水害地区の一番の問題としては、宅地や商業地に対する整備の治水対策であります。もう全て整備をするにおいても、治水対策ありきというふうになっております。

人口の減少化による空洞化も進んでもいます。今度つかれば、本当に、前も言いましたけど、誰もいなくなりそうです。

令和5年の出水期が来るのが本当に怖いと思っております。

私も自分の家をかさ上げして、この場所に住み続けようと思っておる次第であります。被災者もう限界に来ています。一日でも早く安心して暮らせるように、これからも引き続き対策をお願いしていきたいと思っておる次第であります。

次の質問に入ります。

これは北方町志久地区の河川整備についてということで質問をしていきたいと思えます。

ちょうどこの地図で書きました、これが河川になって、リムスの裏のほうに流れております。これは、この橋からこっちのほうになりますけど、ここは国道ですね、ちょうどこのほうですね。（「議長ちゃんと注意しとかんば、ここって言ったら分からんばい」と呼ぶ者あり）すみません。志久地区にちょうど長崎街道がありまして、追分地区と掛橋地区の境の川になって、地元では「境川」と言われていると聞いておりますが、この途中がこの川の中に石垣が積まれていて、ちょうどこの下のほうが隙間ができていてということで地元の方から相談を受けているところでもあります。

もう一度、写真を見ますと、石がこう出てきているんじゃないかというふうなことも言われていますが、この上は住宅地になっておりまして、先ほどの写真でいきますと、ここはちょっと、石垣がもし崩れれば上の住宅にも影響が出てくるんじゃないかというふうに考えております。

この川の延長線上に行きますと、こちらはJRの高架下で、ちょっと整備も進んでいる場所なんですけど、こっちの別の場所に行きますと、こういうふうにしゅんせつもまだできずに、川の流れもちょっと悪くなるんじゃないかと考えられる場所です。

この場所は調べたところによりますと、県のほうの河川管理地ということであるということをお聞きしました。

この辺について、市のほうから県のほうに要望していただいて、調査をしていきたいと。そして、危険性があるのであれば、整備のほうのお願いをしてもらいたいと考えております

がいかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

河川管理者の杵藤土木事務所に確認しておりますけど、国道より上流部の最初の写真の部分ですけど、護岸部分ですね、それにつきましては、まずは危険性があるかどうか現場を確認し、必要があれば対策を講じていきたいとのことでもあります。

国道より下流のリムス付近の河川になりますけど、これにつきましては、河川断面を広げることが難しいが、まずは現地の状況を確認したいということで、これも回答がっております。

市としても、掛橋川周辺部にはこれまで浸水被害を受けてきた経過もあるため、現在、市で行っています内水調査において、内水量や効果的な対策案の検討を行っているところでございます。

河川の流れをよくするだけではなく、ため池の活用による河川流量を抑制する対策など、有効な対策を検討しながら県にも相談していきたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

ぜひよろしく申し上げます。

この掛橋地区、追分地区というのも、本当にひどい水害に遭っているところであります。特に、このJRを境にかなりの水位が高くなっていて、この本当、川の流れというのは、非常にもう、ここにも堆積物がこう、上から流れてきてたまったりもしておりますので、早急な対応をよろしく願いしていきたいと思っております。

続きまして、次の質問に入ります。

治水対策を考えた開発についてということなんですが、特定都市河川の指定を受けなくても、受ける間、この期間の間にもいろいろな場所が造成されたり、商業地としての埋立てが始まったりとかいうことがあると思っております。

そういう場所に対しても、水害対策を考えた、治水対策を考えた開発をお願いしていかなくちゃいけないんじゃないのかというふうに思っておりますが、それについて市のお考えをお伺いいたします。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

現在におきましては、宅地造成などの開発行為を行う場合、一定規模以上の場合に対し、

開発地内の排水対策を講じる必要がございますけど、それ以外につきましては、また、その周辺部の浸水対策につきましては、法的根拠がないため開発事業者へ求めることができない状況でございます。

しかしながら、今進めております特定都市河川を行うことによりまして、それにつきましても、ある程度の指導的なものを入れてくるようになるかと思っておりますので、まずは特定都市河川の指定を受けて進めていきたいというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

今、法的根拠がないということをおっしゃられました。

でも、私も武雄市に対して、この地区開発はどうなっていますかと、この地区整備したほうがいいんじゃないですかという質問をしたときに、治水対策をしなきゃ整備されんもんねと、ここにたまった水はどこに行くかというのを言われたこともあります。

法的根拠がないというところもあるかとは思いますが、その辺はまちづくりをしていく中で、住宅も開発されていく中で、民間の業者さんとも十分に打合せして、やっぱり上流部ばかり整備されて、その整備された水がコンクリートで、コンクリートは水面に水が入らなくなると。それが全部、川に一遍に流れてくる。

やっぱり都市化というか、整備が進めばそういう状況というのはこれからもどんどん、どんどん増えていくと思うし、六角川もやっぱりそんな多くの水をポンプ排水——ポンプも止まっているわけですから、多くの水を六角川に全部流すということはまず難しいと思います。

広田川のほうに新しい排水機場も今、工事が始まっております。高橋排水機場のポンプの増強も始まっています。一遍にやっぱり雨が降ったときに、水が来たときに、六角川に全部水を持っていくということは非常に困難なことだと思います。

先週の質問の中に、遊水池公園も造りますよと、計画していますよという話もありました。ただ、やっぱり大きなものを造るにはお金も要りますけど、時間もかなりかかると思います。

一つ一つの場所が、小さなところから対策を行うことによって、小さなものが集まればやっぱり大きくなりますので、一つ一つの開発、一つ一つの事業、そして、そういったものを皆さん、みんなが協力することによって水害というものは減ってくるんじゃないかと、市長が求める床上浸水ゼロというものへ、近くなるのではないかと私は考えております。

市長、その辺についてちょっと一言お願いできませんか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まさに今、議員がおっしゃったことが流域治水の本質だと思っています。

これまで、やはり河川に頼る治水対策であったけれども、それはもう限界に来ている中で、やっぱりみんなが少しずつでも協力をして、水が浸水することを少しでも防いでいこうと。これはやはり企業や団体だけではなくて、市民皆さんお一人お一人の御理解と御協力も必要になってきて初めてできることだと思っています。

治水対策はこれまで、どちらかという大枠で捉えていましたけれども、恐らくこれからさっきの追分、掛橋も、私も実際、現場へ行きましたけど、本当に2回とも大変な状況です。床上150センチ、60センチという皆さんもですね、お話も聞きました。

全体だけではなく、これから今、調査をやっていますので、治水対策全体もよりミクロに、この水の流れのこの流域であればため池をこれだけする、川幅を広げるといような対策、きめ細かい対策にこれから移っていく時期だというふうに思っています。

そういう中で、やはり開発についても、それぞれ総枠だけではなくて、いろんな人がやっぱり協力をして治水と開発のバランスを取っていくと。そういうことを、ぜひ私たちとしても目指していきたい。

そのためのツールが、繰り返しですけど、特定都市河川の開発があれば、自分のところに降った雨は自分のところで処理してくださいというふうに、よそに迷惑をかけないでくださいと、これは法的にもできますので、これについて、とにかくもうできるだけ早く指定を目指していきたいと思っています。

繰り返しですけど、おっしゃるとおり、とにかく市民の皆さんお一人お一人の御理解と御協力をこれからもぜひ求めていって、みんなで何とか水害のないまちをつくっていきたくて考えています。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

本当に一人一人の努力、協力が大きなものになるということは間違いないと思います。これからも、私も含め、水害対策、治水対策に対して、本当に忘れることなく、去年来なかったからもう今年も来んばいということじゃなくてですね、来年は来るかも分からん、再来年はくるかも分からんという、そういう気持ちを忘れずに取り組んでいかなければいけないと思っておりますので、これからもよろしく願いいたします。

続きまして、観光について御質問いたします。

今、メディアのほうでも大分取り上げられるようになりましたサイクルトレインというものの導入、計画ができないかというふうに考えております。

実際は、やっぱりJRとの連携とかいろんなものが必要になってきますが、このサイクルトレインを導入するに当たっては、そう簡単にできることではないのかなというふうには感じますが、ただ、武雄市には競輪場というほかのまちにはないものがあります。そして、競

輪場には自転車のプロの方もたくさんいらっしゃいますし、G1レーサーもいらっしゃいます。そういう方々とコラボをすとか、いろんな企画を立てて、——武雄市というのは、特に自然を巡るにしても、やっぱり自転車というものは結構便利なツールの一つじゃないかというふうに考えられます。マイ自転車を持ってきて、そして、武雄市のいろいろな観光場所、遺跡とか、そういったスポット、パワースポットとかを回って、そして、最後に温泉に入ると帰ると。おいしいものを途中で、たくさん場所がありますから、食べると。

このサイクルトレインというのは、どちらかといえばローカル線を利用して、そして、武雄でいえば永尾駅とか三間坂駅とか高橋駅とか北方駅とか、そういったところに止まるのが一番理想な形だというふうに言われております。

それで、先日の一般質問の中にもありましたが、市長のほうから、松浦鉄道と一緒にしたらいいかと、松浦鉄道が武雄に来たらいいなというお話もありましたが、実際、松浦鉄道のほうではこのサイクルトレインが取り入れられて、観光のスポット、観光の目玉という形でもなっております。

現在、九州では熊本、福岡、長崎、この3県が取り組んで行っているんですけど、この件について市の考え、導入の考えというものはないかお尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

おはようございます。議員御提案のサイクルトレインでございますが、確かに武雄の魅力や観光をサイクリングで楽しんで、また、交通の手段としての自転車の観光事業への活用というのは非常に有効的ではないかというふうに考えているところでございます。

ただ、このサイクルトレインにつきましては、武雄市に走っています列車でいきますと、佐世保線になりますけども、沿線自治体との連携等も必要になります。また、これにつきましては、まずJRの許可というのが不可欠でございまして、今後、沿線自治体の皆様、また、JRと協議をしながら、可能性については探っていければと思っております。

○議長（吉川里己君）

2番山崎議員

○2番（山崎 健君）〔登壇〕

観光、武雄市をやっぱり盛り上げていくと、一つの手段としてはいろいろな、まだ方法もたくさんあると思います。このサイクルトレインについても、私の提案として上げたんですが、検討をしていただいて、これから活用していただくことができればいいんじゃないかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

続きまして、これはですね、タケさんぽについてちょっとお尋ねしたいと思ひます。

これは、今、公民館とか観光協会とか自治体において、一つの観光の紹介と、観光ルート

の紹介ということで出されているものだと思います。

ちょっと細かいことといたら何ですけど、これは北方のタケさんぼの北方コースになります。大変申し訳ありません、このかま蔵うどんについてはもう、ちょっと今、水害でおやめになられて別のお店に変わっております。

なぜか知らないですけど、北方のほうだけここに、皿うどん幾らとか、カレーごぼう天うどん幾らとか値段まで入っているわけですよ。今はこの物価の影響もあり、各値段も変わっているわけです。

これはいつ頃作られたのか、そして値段の面についてはですね、やっぱりこれを見て、思う人は少ないかも分かりませんが、ちゃんぽんが 860 円が九百幾らに変わっているとか、いろいろそういったものもあるかと思えますけど、この辺のちょっと切替えというんですかね、そういうことを考えられないのかお尋ねいたします。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

議員御指摘のチラシでございますが、確かに最新情報に更新できなかったという部分がございます。こちらのほうでも確認しております。

武雄市では、市内の観光資源等を巡るモデルコースといたしまして、オルレコース、また、各町へのタケさんぼコースを設けて観光誘客を図っているところでございますが、このチラシにつきましては、在庫がなくなり次第更新をかけて増刷をしている関係で、どうしてもそういうものが生じたということでございますけども、御指摘のとおり、来ていただけるお客様方に誤った情報をお伝えすることはよくありませんので、今後、増刷等の計画等もしっかり考えながら、掲載内容の見直しも含め効率的な計画でやっていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

2 番山崎議員

○2 番（山崎 健君）〔登壇〕

ぜひ観光客、来ていただいたお客様に対して最新の情報、新しい情報を提供できるように、今後とも改善のほうを進めていただきたいというふうに思います。

こんな細かいことというか、指摘してすみませんが、先日、ある講義を、熊本の方の講演を聴く機会がありまして、こういうことを言われておりました。

これ熊本の方がやっぱり通過点に過ぎないということで、情報の発信をするためにこういう言葉を言われたということなんですが、新幹線開業を機に、改めて足元の宝に気づき、愛し、磨き、力を合わせて発信していきたいということを最後に言われました。

武雄にもいろんな隠れた宝物、——先週、牟田議員のほうからも、あるものを生かそうということも言われました。本当にね、いろんな宝があると思います。

一番大切なのは、力を合わせてどうやって発信していくか。これ、発信というものが、ただ単にホームページに載せればいいのかじゃなくて、発信するうちゅうのがすごい難しいとか、やっぱり皆さんが興味あるように、見てもらえるようにしていかなくちゃいけない。武雄に何かなかろうかというよりも、どっかいいところなかろうかと思ったら武雄がぼんと出てくるとかですね。九州に、どこに行こうかと思ったら武雄が出てくるとかですね。

とにかく発信するうちゅうことが非常に大切なことで、もう本当に難しいことだとも思います。様々なアイデアを出していただいて、これからの武雄市の観光がどんどん盛り上がり、この新幹線が開業で一瞬の盛り上がりじゃなく、これを機に、国スポもありますし、どんどん、どんどん新しい人に、お客さんに来ていただいて、また武雄に来たいんだと、できれば武雄に住みたいというふうに思っていただけのように努力をしていただきたいというふうに考えます。

これをもちまして、私、山崎の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（吉川里己君）

以上で2番山崎議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備等のため10分程度休憩いたします。

休	憩	9時45分
再	開	9時54分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、9番上田議員の質問を許可いたします。御登壇願います。9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

（全般モニター使用）おはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、これより9番上田雄一の一般質問を始めさせていただきます。

前回、9月議会で、すみません、私、濃厚接触者になってしまいまして、ヒアリング等々できませんでしたので、急遽一般質問を取下げさせていただきましたので、ちょっとボリュームが多くなっております。

早速質問に入っていきたいと思います。

今回も武雄市の今後の方向性についてということで、1つ、まちづくりについて、スポーツ振興についてということで、このような内容で質問をさせていただきたいと思います。

まず初めに、9月23日、いよいよ西九州新幹線の暫定開業を迎えました。にぎわいを見せる武雄ということで朝、6時前後でしたよね、武雄温泉駅、ごった返すような、人がたくさんいらっしやいまして、本当にうれしいなと思いました。

これは、テープカットの様子でございます。

これは私のほうが撮った写真なんですけれども、これが何か、上がっております。このテープカット、あんたセンターやんって言われてですね、何も考えてなかったんですけれども、テープカットで、偶然、私と杉原議員が、そのテープカットのセンターに位置づけているような格好で、もう爆笑してしまいましたけれども。

その上で、先日、新幹線開業記念ということで秋田竿燈まつりが武雄のほうにお越しいただきました。

これは岐阜のほうの新聞になるんですけれども、タレントさんが1人、1人じゃないですね、タレントさんがお越しいただくということで、最多の46万人と、すごい数がお越しいただいているわけなんですけれども、武雄市も先日行われました秋田竿燈まつり、10万人の方がお越しいただいたということで、本当にうれしいことでした。

これ、過去に質問で使わせていただいたものですが、平成30年の10月21日、私も含めて武雄ロータリーの皆さん、武雄青年会議所の皆さんと共に、秋田市のほうに、慰霊祭のほうに出席をしていただいたわけですので。武雄市長もこのときに一緒にお伺いさせていただいたわけですが。

そのときに、秋田市との交流に関する協定を締結ということで、秋田市との交流締結をさせていただき、私も偶然、秋田市と一緒にいたものですから、参加をさせていただいたところでございます。

その上で、今回、武雄市に10万人お越しいただいたこの竿燈まつり、本当に秋田市の皆さんが多数ですね、この武雄の地にお越しいただいたわけですので、まず初めに、この秋田市の皆さんへのお礼と、今後、どういうことかで、武雄も返していかなばと思うわけですので。我が市も、来ていただいたからには何かしら恩を返していけないんじゃないかと思うわけですので。これについての市長の見解を改めてお伺いをしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

まずは先日、4年ぶりに開催しました秋田竿燈まつりIN武雄、10万人の御来場をいただきました。秋田市から来ていただいた80名強の皆様にはもちろんですけれども、御来場いただいた皆さん、また、関係者の全ての皆様に心から感謝を申し上げます。

先ほど、上田議員から秋田市との交流協定を締結したということを見せていただきましたけれども、まさに今回の事業は、私たちが当然、誘致活動はしたんですけれども、武雄市と秋田市が予算を折半してやったと。普通は全部こちらお抱えなんですけれども、秋田市の皆さんも予算を組んで、そして、一緒にしていただいたということで、なおさらやっぱりこう、感謝の気持ちが湧いてきます。

ここに至るのも、やっぱりこれまでロータリークラブの皆さんをはじめ、ずっと秋田市との関係、交流を続けてきていただいた皆さんのおかげであり、前回の盛り上がりをつくっていただいた市民の皆さんのおかげであり、とにかくもう感謝の言葉しかないと思っています。

ぜひ市民の皆さんには、来年、秋田竿燈、現場、本場を見に行っていたきたいなど。280本竿燈が出ますので、それも私たちの恩返しの一つであると思いますし、子供の交流を含め、これをきっかけにさらに秋田市との交流を深めていきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

秋田竿燈まつり、前回は8万人、今回は10万人ということで、私の肌感覚なんですけどね、前回の8万人よりもさらにこう、何というか、人の密集度がこう広がっていたような感覚があって、前回は8万人だったら、もっとおったとやなかかなというぐらいな感覚で見て、本当に秋田市の皆さんに感謝するところでごさいます、私も、ぜひ今度、武雄のほうからたくさんの皆さんが行って、恩返しができるようになればいいなと思っておるわけでごさいます。

ここからちょっと個人的な感じの感覚もあるんですけど、私がよく見るテレビの、グルメ番組が僕大好きで、この「バナナマンのせっかくグルメ！！」だったりとか、「秘密のケンミンSHOW」とか、もう皆さんもちよいちよ見られるでしょう。

こういういろんな、もうこれ以外にもたくさんありますよね。たくさんありますけれども、本当に、武雄はグルメのところでも、たくさんの皆さんがお越しいただく商材はたくさん持っておるわけですし、ぜひこういうところで取り上げていただけるように我々も頑張っている、グルメでも、あれを武雄に食べに行きたいというような感覚でやっていただきたいなと思うわけです。

ただ一方で、僕が一番大好きなのがこのヒューマン、「オモウマイ店」みたいな形のやつが一番好きなんですけど、これに出るのはなかなかちょっとあまりまだないなと。僕が勉強不足で知らないだけかも分かりませんので、ぜひ武雄の飲食店さんもこういう番組にも取り上げていただくような商品開発も考えていただければなと思っておるところでごさいます。

それで、次に、旧庁舎の跡地活用についての質問に入ります。

旧庁舎跡地、これは過去にも何度も何度も質問で出させていただいております。

この部分、今、この一番車の密集している部分が旧庁舎があったところですね。こっちはもともと、第3駐車場でごさいましたので。

今現在、跡地は、やっぱり暫定的に駐車場で活用するというような形で、これは過去にもずっと質問を出させていただいておりますけれども、この活用策の進め方、市民の皆さんからも——今回の竿燈まつりでもそうです、駐車場、はっきり言って足らんぐらいありました

よね。

そういう中で、この旧庁舎の跡地をどのように活用していくのか、いつまで市の職員さんの駐車場として利用するのか。駐車場が足りないと言っている一方で、いつまで駐車場で利用しているのかと、こう矛盾しているところもあるかと思うんですけど、この考え方、進め方をどのように考えられているのか、改めて答弁をお願いしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

旧庁舎跡地の活用につきましては、先日も豊村議員のほうでもお答えいたしましたように、集客施設等の民間活力、それだとか、駐車場として利用していくちゅうことでお答えしております。

今後につきましては、12月下旬に市場調査、要領案を作成いたしまして、関係団体の意見も聴取いたしまして、3月上旬には要領案を取りまとめまして、3月下旬より市場調査を実施する計画であります。

その後、令和5年度に、開発のほうにでも少しでも入れればちゅうふうを考えております。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

その答弁、先に聞いておりましたけれども、これ、結局ですよ、今ここにこれだけの数の市の職員さんの駐車場として利用されているわけですよ。

ここは夜のお食事等々も、市民の方も含めたくさんの皆さんがやっぱり使われておりますので、なおかつ今回、竿燈まつりでも駐車場が足らなかったというような状況も踏まえると、やっぱり私はここに第3駐車場のところにでも早く、もう早期に立体駐車場を整備しないと、職員さんの車も止めるところありません、でも、開発は考えていきます。矛盾していますよね、何となく。できるんですかって。

その跡地活用を考えるためにも、そして、なおかつ水害対策で、常襲水害の危険性があらわれる地域の皆さんには、今、民間の立体駐車場の皆さんが御協力をいただくからこそ、車を逃がしていくというような考えで今、対応をされておりますけれども、そもそもここに車の止める場所が、こだけ止まっている車が、ここを開発するとどっかに止めんといかんわけですよ。

と考えると、ここを民間活力等々も考えながら開発をするのであれば、第3駐車場のところにでも市営の立体駐車場を早期に考えていかないと、武雄のまちづくりは前に進まないんじゃないかと思うわけですけど、改めてこれについての考え方を答弁願います。

○議長（吉川里己君）

庭木企画部長

○庭木企画部長〔登壇〕

先ほども申しましたとおり、第3駐車場につきましては、今後も駐車場として考えていくということでお話しいたしましたが、議員御提案のとおり、やはり日中におきましても、市民の皆様が利用されている、公用車も置いている、市の職員も止めているということから、やはり議員御提案の立体駐車場につきましては、しっかりと検討してまいりたいと思っております。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

よろしく申し上げます。

次に、この暫定開業を迎えた西九州新幹線については、9月23日より前から後ろから、もうとにかくたくさんのお声をいただいております。

今、ここに私がいただいたような声が、ちょっと羅列をさせていただいておりますけれども、やっぱり一番多いのは全線フル規格化はどうかと、こういう尻切れトンボのような新幹線でいつまでいくのかというような話をたくさんいただくわけですね。おまへたちはなんしようとかとお叱りの声までいただくほどでございます。

これから、やはり早く全線つないで、西からも東からも、皆さんがこの武雄にお越しただけるような、お越ししていただきやすいように前に進めないといけないと思っておりますけれども、これについての答弁をお願いします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

実際に西九州新幹線に乗られた方とお話をすると、やっぱりつながないといけないねというような声を多く聞きます。

今回、リレー方式でスタートしましたが、確かにリレーだと、全部の電車が武雄に止まると。これは市民の利便性という点では、上がるというところはあると思うんですけれども、やはり交流人口の増加という点では、やはり効果が薄いと思っています。

長い目で見たときに、やはり交流人口の増というのが地域の持続可能にもつながってきますし、また、災害対策という点でも、私はこれまで同様、フル規格というのが必要であると考えております。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

市長からそういう声を聞いてよかったです。

やはり、このこれからの人口減少社会の中では、やっぱり交流人口を増やして行って、武雄にいかにかくさんの方にお越しいただくかというのをやっぱり考えていかないことには、やっぱり自治体の、まちの衰退というのにつながりかねませんので、ぜひ早期に結んでいきたいわけでございます。

その上で、正直なところ、佐賀県のスタンスというのがちょっと私は全く理解できていないところがあるわけです。

いろんな報道等々を確認をすると、フル規格に対してはそもそも佐賀県は望んでいないとかというような記事があったり、つい最近になってきたら、空港ルートなら一考の価値があるみたいな感じの、何となくそういう紙面を見たりですね。

そういう中で、ちょっとやっぱり私自身は、この佐賀県のスタンス、県のスタンスというのがなかなかちょっと理解できていないところがあるわけでございます。

今回、知事選がもう間もなく控えておるわけですが、その上で、市長会は現職の知事を推薦するというような記事がありました。

もうそれ見て、——私自身は市長会のメンバーでも全然ございませんからあれですけど、市長会の記事を見てみると、市長会全体が推薦をしているとなると、武雄ももちろんそうだよなど。そこら辺、どのような経緯でそれが決まっているのか。もちろん、小松市長にもそれなりの打診もあったんじゃないかなと思うわけですけど。

何とかして、こっちとしては、フルでつなぎましょうよ、フルでつなぐといかんよ、武雄市にはフル規格を全部つないで、佐賀県全体をつないで、九州全体をつないで、日本の背骨の部分に、日本の背骨に武雄を乗せんばいかんというような考えで僕はいるわけですけど、そこら辺も踏まえて市長の答弁をいただきたいと思います。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

新幹線についてフル規格が必要というのは、市長会の中では、私と嬉野市の2市が従来から主張しているところであります。

今回の推薦に当たっては、この新幹線関係だけではなくて、例えば今後進めていかなければならない治水であるとか、あるいは道路整備、農業政策、そういった全体、総合的な観点から、市長会の総意として推薦をすることが決定したということでございます。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

分かりました。

自民党の推薦もあるわけですし、そこもいろいろすったもんだあったという話は伺っておりますけども、僕も総務会のメンバーではございませんから、もういいんですけど。

推薦となったら、それはもちろん、やはりやるべきことはちゃんとやりますけれど、そこら辺は、しっかり私も立場をわきまえて頑張っていきたいなとは思っておりますけれど。

それでは、次に、これも私に市民の皆さんからも声をいただいたものでもありますし、私自身も感じたところもあるわけです。

暫定開業を行われて、在来線のホームと新幹線のホームが新しく武雄にできました。これについて、非常に分かりづらい。なおかつ、博多に向かう際に、在来線ホームに行かないといけないものなのか、新幹線のホームから乗るものなのか。

これ、私自身も実際体験したんですけど、これまでどおり在来線で、——博多にちょっと出張で行くことがありまして、普通に切符を買おうとしたら、一回、在来線ホーム行ったら、もう窓口も当然なかけん、また戻ったわけですよ。戻って、そこで買ってという。在来線ホームに行こうとしよったら、いや、お客さん、違うですよ、こっちですよって言われて、事なきを得たんですけど。

そのときにも、同じところで切符を買うときも、たくさんの方がいたんですよ、武雄の方が、私の知り合いの人が。ちょっと分かりにくかねという声をいただいたんですけど、この辺の声は実際、市のほうに届いておりますか。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

開業後の特急列車の利用の場合で、先ほど議員の御指摘の部分でございますが、これにつきましては、私どものほうにも声は届いております。

既に、これについては駅のほうにも要望を行っておりますし、JR九州のほうもそこは認識をされており、この今の体系自体が実は事例が全国にはなく、武雄線が初めての事例ということでしたので、現在は、特急利用者向けに、スタッフのほう誘導案内とか案内表示の変更などを行って、サービス向上に向けた改善策を現在、模索されているという状況でございます。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

よかったです、声が届いていたら。

そのときも、私も時間、結構余裕を持って行っていたのでよかったんですけど、これまでだったら、うちも駅から自宅も近いので、結構ぎりぎりに行ったりしていることが多かった

んです。ただ、今回、新しくなったんで、ちょっと余裕を持って行ったら、もうまんまとそれやったんです。

武雄の方も、やっぱりこれまでの従来どおりのやり方というのに慣れていらっしゃる方はたくさんいらっしゃると思いますので、やはりこの不具合というのは、大きく皆さんに混乱を招く可能性もありますので、ぜひJRとしっかり協議をしていただいて、調整を取っていただきたいなと思っています。

もう既にあれでもんね、駅はもう電話すらつながらんですよね。ちょっと私、そこら辺の話をしようと思って電話を、JRにかけたら、音声ダイヤルですかね、こう何番かを押さんといかんような番号をずっとアナウンスされて、そこに電話をかけてって。料金やったら1を押してとか、そういう感じの対応に変わっていたので、あらって、がっかりだなと思いつつながら。

ですので、ぜひ早期に、市民の皆さんの混乱を招かないように前に進めていただきたいなと思っています。

次に、JR関係で、これはそれこそ、これも何度も何度もこの場で質問をさせていただいておりますけれど、在来線の自動改札、IC化をぜひというところを要望すべきということで、ずっと質問をしておりましたけど、残念ながら、もちろん新幹線のホームは自動改札にはなっていますけれど、ICはあれまだ対応しとらんとですよね、していないんですよね。

だからもう、ぜひそこをまずやってほしいなというところで、8月23日に、これ佐賀新聞の記事なんですけど、佐賀・長崎でIC乗車拡大ということで記事がありました。

突然前に進んだというような形で、新たに19駅、2024年度利用開始へというところで、JR九州と両県が導入を合意したという記事があります。

本当に喜ばしいところなんです。これが今のICの利用可能路線図なんですけど、この赤いところが利用可能なんですよね。残念ながら、この佐賀の鍋島から、ここぼんって、武雄を含めてここが全部飛んでいるわけです。

だから、これがずっとこのような状態で赤く網掛けが——2024年度ですね。2024年って、あと2年後、間に合うんですかと言いたいところもあるんですけど、もっと早うしてほしいという希望的観測を含めて、この件について見解を、新聞情報しか知りませんので、ぜひお願いしたいと思います。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

このICカード化の情報でございますが、まずJR九州と佐賀県が平成28年8月に包括的連携協定というものを取り組んでおられまして、その中でICカードエリアの拡大に関するということ明記されております。

我々も県のほうに、毎年、市長会とかで知事要望を行ったり、今年度につきましては、市長が直接、JR九州の社長とも要望をしてきたということで、これにつきましては、先ほど申し上げましたとおり、県と平成28年から協定を結んだ中で、常に検討されていたという中で、今回、発表があったというふうには伺っております。

先ほど議員からありました、8月22日に包括的連携協定の指針にのっとりまして、2024年度よりICカードの乗車券を西九州エリアに導入するということが発表されまして、この後、2年以上かかるということでございますが、これにつきましては、交通系のICカード導入の手続につきましては、全国協議会の組織というものがございまして、そこで承認後に着工ということで、どうしても1年から2年はかかるということで、今のところの計画では2024年、できるだけ早い着工をというふうには伺っております。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

すみません、先ほどの答弁でちょっと確認ですけど、承認をされるまでに時間がかかるという答弁なのか、もう既に承認されたので、2024年度の導入を目指して前に進もうとしているのか、どちらですか、確認します。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

今回の8月の発表は、沿線自治体等との、これまでの県との協議を行った上で、JR九州と佐賀県とで確認を取ったと、佐賀県、長崎県もありますけれども、確認を取ったということで、承認等についてはこれからでございます。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

そういうことですね、分かりました。

もう、やはりとにかく一日も早く、これはもう何とかしないといけないと思うところですので、もうぜひ早期に前に進んでいくようお願いをしたいと思います。

続いて、JRについてまたもう一つ、私に若い方がこう、声をいただいたんです。まだまだ20代くらいの方なんですけれど。博多の往復切符の金額がどんどん、前とするとずっと上がっていると。その方は、どこからか武雄に移住されてきた方なんです。武雄が本当にどこに行くにも便利、どこに移動するにも本当に便がいい、都合がいいということで、武雄に住んでいるということでお話を伺ったわけですけど。

博多往復切符の価格についてですね、武雄温泉から博多がここ、地図が小さいから見えな

くて結構ですけど、ちょっと料金を、今現在の料金はこういう形になっています。博多・鳥栖は、2,640円で往復になるんですけど、これは、博多―鳥栖間は快速列車、快速電車が多数あるので、利用される方は、往復で利用される方ってほとんどいないそうなんです、JRの方からお話を聞くと。ですので、2枚切符もなければ、極端に言うと、佐賀よりも高くなって、佐賀を往復するよりも高くなっている現象が起きています。ただし、これは利用される方がほとんどいないですもんねって。

ですので、そういう形で話を伺いました。

佐賀と博多の往復は2枚切符で2,500円。博多―江北ですよ、今ね。肥前山口じゃないですよ、江北ですよ。江北―博多往復は3,680円の2枚切符があると。武雄温泉は2枚切符がないので、通常に買われると6,820円だそうです。

ただ、佐世保―博多往復が4,700円の2枚切符というのがあるので、武雄温泉の方も2枚切符を佐世保―博多往復分で購入されて、4,700円になっているというような現象が起きている状況でございます。

実際、今回、私に寄せられた若い方の声は、この4,700円が以前からすると、どんどん、どんどん上がっているというような話を伺いました。

確かに、昔は4,000円切っていたと思うんです、私が若い頃ぐらい。何年ぐらい前かはちょっとよく分かりませんが、3,000円後半という時代もあったと思うですもんね。

ただ、今はコロナだったり、ウクライナ情勢、そこら辺も踏まえてですけど、これはでもあまり関係なくどんどん上がってる、この金額になったような気がしますけど。

ただ、JRの料金体系も距離と時間とかというような形で、ある程度、設定をされていると思うんですけど、やはり佐世保と博多を往復する金額と一緒に、何かやっぱり違和感がああとですよ。

ここら辺について料金のこれ、今後、博多―武雄、もちろん新幹線の切符もいろんな、観光で乗り降り自由にとか、いろいろ市のほうも動いて頑張っているのは重々承知しておりますけれど、ここの博多―武雄温泉、これが安ければ、――やっぱりランチを食べるお金もなくなるとかいう話も伺ったわけで、そこら辺、どのようなことで市のほう、今後考えていられるか答弁願います。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、令和3年3月までは、武雄温泉―博多間ということで、窓口で購入する切符では、いわゆる2枚切符、これは4,400円で販売をされておりましたが、現在、廃止をされております。

今、利用されている中で、窓口で購入される場合は、佐世保―博多間の4,700円というこ

とで利用されている方というふうに伺っておりますが、この2枚切符につきましては、佐世保や長崎の終点のほか、江北駅など分岐点で販売されているということから、開業後、武雄温泉駅も西九州新幹線と佐世保線との分岐点ということになりますので、利用者の増も予想されるということで、我々といたしましては、ぜひこの2枚切符の復活については県を通じてJR九州に要望をしていきたいと考えています。

なお、これはネットから購入する切符でありましたら、現在も武雄温泉―博多間は片道2,200円、往復で4,400円で購入することができるというふうに伺っております。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひ復活を要望していただいて、前に進めていただきたいなと思います。

ネットで買えば4,400円でまだ買えるということでございます。そこら辺ですね、ネットで買える人と買えない人といらっしゃると思うんですよね。ですので、ネットで買うともっと安く、ネットでじゃなくて切符で買うと4,400円で、ネットで買うと4,000円ぐらい、せめて交渉をしていただければなというふうに思います。

次に行きます。

次に、まちづくりの県道拡幅についてでございますけれども、この地図は小楠交差点を映した地図でございますけれども、小楠交差点から南を向いた写真になります。

県道53号、武雄伊万里線ですかね。ここも拡幅の計画というか、あるかと思うわけですが、今現在、近隣の住民、住まわれている住民の皆さんからいただいた声ですけど、これ、どがなんいよとやというような形でいただいたりしているわけで、ここの拡幅工事の今後の計画とか、どのようになっているのか答弁願いたいと思います。

○議長（吉川里己君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

先ほど議員が言われました県道武雄伊万里線ですが、この整備につきましては、令和2年度に事業認可を受けまして測量設計を行い、令和3年度には用地測量が完了しており、今年度から建物調査及び用地買収が進められております。

今後、引き続き用地買収や工事の進捗を図りながら、令和8年度工事完了を目指して進めていくとのことで回答がっております。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

令和8年度完了を目指すということですね。

先日、住民説明会ですかね、そこら辺があったかと思うわけですけど、令和8年、長いですね。あと4年ぐらいかかあわけですよ。分かりました。

そうしたら、この小楠交差点から、今度は東側を向いた写真になります。

小楠交差点よかちょっと先に進んで、これは武雄中学校の前の道、武雄中学校の南側の道になるわけですけど、これは県道24号線、県道24号線も拡幅の計画があるかと思います。もう県の話やけんが、武雄市にやあやあ言うてもということでありましてけれど、やっぱり武雄の住民の皆さんがどうなっているんだというように疑問を持たれております。

武雄市としても早期に前に進めていただきたいところをどのような形で動かれているのかも含めて、この県道24号の拡幅の計画はどのようになっているのか。武雄中学校まではある程度、拡幅がもう済んでおります。中学校を過ぎた、中学校の校門の前から、武雄中学校から東側の道ですね、ぜひこの今後の計画、どのようになっているのか答弁願いたいと思います。

○議長（吉川里己君）

野口まちづくり部長

○野口まちづくり部長〔登壇〕

議員が質問されております県道につきましては、県道武雄多久線になり、小楠交差点付近から甘久交差点付近までの整備ということになりますけれど、これについても杵藤土木事務所に確認しておりますが、今後、まちづくりを踏まえ、どのような形で事業を行うのか市や地元関係者と協議を進めていきたいとのことであります。

そのため、令和5年度には、道路利用状況の把握のために交通量調査を予定しているとのことであり、武雄市としても早期事業着手に向けて、引き続き県に要望していきたいと考えておりますけれど、市の対応としても、これまでに知事要望ということで、小楠交差点付近から武雄中学校の間について、平成29年度にすりつけの工事が完了して、それから甘久交差点までの間について、県知事要望において幹線道路網の整備促進の中で、当該道路の早期整備促進を継続して要望しておりまして、その中でも継続して要望している状況でございます。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

要望している状況ということであれば、スケジュール的に何も決まっとらんということですよ。

となると、ここから先のお住まいの皆さんは今、本当にもうお困りなんです。というのは、水道管の関係とかもあって、かなり老朽管がここら辺、本管入っておりますので、ぜひ早く前に進めてやらないことには、ここら辺に住まわれている方は本当に不具合を持たれているわけです。

です。武雄市としても早期に実現の要望をお願いしたいと、動いてほしいと思いますけれども、先ほど市長答弁いただきました。新幹線は抜きにしてということでありました。

こちら、県道拡幅、早期にということで、推薦のあれに、ぜひお願いしてほしいなと思います。僕は話すこともありませんから、ぜひ市長、お願いをしたいと思いますが、どうでしょうか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

ぜひ上田さんから知事にもお話ししていただきたいと思いますけれども。

ここにつきましては、とにかく早期事業着手に向けて、しっかりとそこは県に要望してまいります。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

ぜひよろしくをお願いします。

次に行きます。

次に、スポーツ振興についてに移りますけれども、これは毎度毎度、見せておりますけれども、令和3年度夏、3か月間芝生を、グラウンドを一切使用禁止にして芝生の養生をされている光景でございますけれども、その冬、もうこんな状態でした。

正直、私も市民体育大会でここを、砲丸投げとリレーに出ないといけなかったの、アップで走ったら、怖くてやっぱり走られんとですよ。もうやっぱりこの年になるとちょっとした足のつまづきが、もう重大事故みたいな形です。なのでもうとにかく、けがだけできない、けがだけできないというような形でアップをしたわけでございますけれども。

走るのはグラウンドのほうですので、整地はされているわけですが。

歩くのはいいですよ、まだ。でも、走ったり、もうサッカーなんか、もう真っ直ぐボールが転がらないというのは、ここでも何度も説明をさせていただいております、フィールドのほうは人工芝化をやってくれという声を多数いただいております、ここでも何度も何度も話をさせていただいております。

トラックのほうは、このようにタータン的な形で、ちょっとこれは私がただ色を載せただけですけれども、タータンの設置を望む声がたくさんあります。

その上で、総務常任委員会のほうで視察に行っていました。そのときの絵がこちらでございます、確かに天然芝も青々としておりました。

何月やったですかね、先月、10月。10月でもうこの状態で、もう本当に。確かにきれいですよ。こんだけの芝生、高知県立青少年センターというところに見に行ったわけですね。

ども、本当に革靴では入ったら駄目やろうなというぐらいのきれいな芝生でした。

よくよく話を聞いていると、この芝生のピッチは週末だけしか利用させませんって。だから、平日使えない。週末、土日だけ。そしたら、週の中日に旗日があったときはどうなるんですかと聞いたら、旗日も対象外ですと。あくまでも、もう土日だけしか利用されていない。

だからこの状態が維持できるんだなというのを、もう率直に感じたわけです。

タータンの部分は平日でも何でも利用が可能と。

武雄の白岩の場合は、そういうことできんですよ。あそこが競技場として、市内唯一の競技場なので。

これが上空の写真ですけれど、これももう毎度、質問で使っていますけど、今度、自分で色を載せて、線を引いてというような形でしたけりすけれど。

とにかく、まずはピッチのフィールドのところの人工芝化を早く進めてほしいと。もちろん、全面タータンまでできればそれが一番ですけれど、なかなか前に進まないと思いますので、まずはこっちでもと思うわけです。両方一遍にできればそれが理想ですよ。

ただし、本当にここを使っているだけでけがをします。危険性が非常に高い。

ただし、武雄にとって、ここを今の芝生の天然芝で週末だけしか利用させないというのは、ほぼ難しい。そうすると、ふだん使いたい人が多分納得されないとします。

ですので、企業版のふるさと納税だったり、クラウドファンディングだったり、そういうのをいろんな制度を早くつくって、早急にここの改修の計画の策定をしていくべきだと。

まず、とにかく一番最初、とにかくここのフィールドの中を天然芝じゃなくて、もう天然芝を剥がして、もう人工芝にするという方針だけでも前に進めないといかんとやないかと思うわけですが。

公民館方式でもいいと思うんですよ。公民館、入ったらですよ、過去に寄附しんかった人たちの名前のばつとああですよ。私も、地元の公民館だったり、よその公民館だったり、聞くと、地元の公民館とか行ったら、おやじの名前とか見たらやっぱりうれしかですもんね。

そういう形で、いろんな市民の方から寄附書いて、どっかの壁にこう寄贈者の名前ば一つと書いてというやり方でもいいかと思うわけです。

クラウドファンディングでされた方はこういう方ですとかそういうのをいろいろ、とにかく制度をいっぱい考えて、早くこの市民の皆さんの福祉の向上に、スポーツ振興の向上につなげてほしい思いがあるんですけれど、これについて答弁願います。

○庭木企画部長〔登壇〕

議員御提案いただきましたふるさと納税の件につきましてでございますけど、やはりこういう大型の事業につきましては複数年要することもありますから、基金に積み立てる必要がございます。そのために現在、国や県に相談しながら、例規等の整備を進めているところでございます。

また、議員御提案のクラウドファンディングにしる、様々な趣向を凝らしまして、市民の安全性、利便性に考慮した人工芝なり、天然芝なりで、早く、早急に進められればと考えております。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

いや、だから、設計をして、そこから開始しても何年かかかるわけですよね。ですので、それを早くしてほしいと。

でも、人工芝なり、天然芝なりって、そこで答弁で天然芝と言うぎんた、またそっからなごうなるじゃなかですか。もう天然芝やったら、あの状態を維持しようとしたら、週末だけの利用を制限しないと使えないから、やっぱりもう人工芝で整備すべきだと。

これは、もう私も20年以上サッカーしていますからですけど、これ多久の競技場ですよ、もう何年も前から整備されていますよ。たくさんの方がここでサッカーの試合をされています。

私も何度もここで試合していますけど、今でも全然、まだまだばりばりきれいですよ。何年かたっていますけど、もう大雨でボールが動かないぐらい水がたまっても、しばらくしたら水引いて、雨が止めさえすれば水が引いて、この状態に戻るわけです。

天然の芝だったら、もう絶対、試合続行不可能というぐらいの状況になりますけれど、人工芝だったらこのような形でできるんです。

ですので、もう私は、白岩はぜひ早期に、早く人工芝化を決定して、前に進んで、クラウドファンディングになると、そういうのが何年かかるんだったら、もうそこまで設計をして前に進めてほしいなと思うわけでございます。

次行きます。

次は、国民スポーツ大会が2024年、武雄の地で開催されます。武雄じゃない、佐賀県で。

武雄市は自転車競技、軟式野球、ゴルフの、国スポが行われますけれども、栃木国体が今年ありまして、先月でしたっけ、見てきました。

とにかく、佐賀県選手団も頑張っておりまして、武雄競輪に関係する皆さんがもう本当に多数、頑張っておられました。

ロードのほうがこれですね。

とにかくここを見て、もう驚愕したんですけど、全国規模の大会で、自転車競技のスタッフ、物すごい必要ですよ。びっくりするくらいいっぱい、多数のボランティアの方がいらっしゃいました。

ボランティアの方も、各役割ごとにシャツの色が全部違って、オレンジの軍団がいるかと思ったら、今度黄色の軍団がいて、青い軍団がいて、緑の軍団がいてというような形で、そ

の中には警備員の方もいらっしゃる、警察の方もという形で、非常に全国的な規模の大会はやっぱり規模が違うなど思いながら、これがもう 2024 年、武雄の地に来るわけですよ、自転車競技が。

ロードは別ですよ、ロードは大分に行きますから、武雄じゃなくてですね。バンクのほうのトラックレースは武雄競輪場で行われます。

今回、その国スポに合わせて、正直、今のスポーツ課の対応で間に合うのかなど。

なぜこの質問をしているかと言いますと、先ほど来、私もグラウンドの改修の願いを、質問をさせていただいておりますけど、それもスポーツ課が考えていく。私の前に質問をされた山崎議員の質問の、相撲場のこともスポーツ課でしょう。それに、今、グラウンドの管理運営の指定管理が否決されたことによって、今の球場の管理運営もスポーツ課でやりようわけですよ。

それ以外にも、スポーツ課、私これ過去にもここで質問をさせていただきましたけど、テニスコートの老朽化についても早く、一日も早く競技団体と調整を取ってください、話を聞いてやってくださいということをお願いもしています。だけど、それが実現しているかどうかは、確認をまだしておりませんが、それもスポーツ課ですよ。相撲道場の関係、実施、相撲道場の調整もスポーツ課にやっていただいております。

その上で、その仕事をこなしている上で、2024 の準備もしないといけない。マンパワーは足りているのか。

選挙をもう間近に控えている市長に、もうそこをちょっと、ある程度ここ考えてやらんといかんよという質問をするのは、ちょっと今、タイミング的に悪いかも分かりませんが、そこら辺、市長の認識を聞きたいと思います。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

約半世紀ぶりに、この佐賀に国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会がやってきます。

私としては、やはりこれを武雄市のスポーツのまちづくりにつなげていきたいですし、何より全国からたくさんお客様が来られますので、万全の体制でお迎えしなければならない。成功させなければいけないというふうに思っています。

そういう意味で、今年度、スポーツ課の国スポ担当を任期つきも専属も合わせて 4 人増員をしました。ここについては、とにかく確実に進めていける体制を今後もしっかりと確保していきたいと思っています。

あわせて、今、ボランティアスタッフの話もいただきました。ここについては、競技団体と市の職員だけでは到底できない、多くの人の力が必要になってきます。そのために、今後、ボランティアスタッフであったり、あるいは競技の補助員、そういった人たち、いわゆる支

えるスポーツというところに関わっていただきやすい環境というのを併せてつくってきたい
と思います。

そういったことで、とにかく 2024 の大会を武雄市のスポーツの盛り上がりに加えて、確
実に成功させるためにここはしっかりと進めていきたいと考えております。

○議長（吉川里己君）

9 番上田議員

○9 番（上田雄一君）〔登壇〕

そうですね、私も現地に行って、やはり見える部分も多数あったのでこの質問をさせてい
ただいたわけでございます。

現地に行ったら、学生のスタッフも結構いっぱいいらっしやったので、もうそこら辺をひ
っくるめて、ただそこも準備をしないといけないわけです。

とにかく、バンクのトラックレースは、もう全国各地から見えられると。

宇都宮市競輪場を利用しての自転車競技が実施をされていましてけれど、宇都宮競輪は昔
の武雄競輪みたいな形で施設が大きかったですよ。だから、各県ブースでずっと、その中あ
りましたけど、とてもじゃなかですけど、建て直った今の新しい武雄競輪の施設の中じゃあ、
もうとてもじゃない、実施難しいだろうなと思ったので、今回、そこの準備も含めて計画を
立てていかんといかんで、質問させていただいたわけでございます。ぜひよろしくお願
いします。

次に行きます。

競輪場施設の今後でございますけれども、競輪事業の一般会計繰入金、何度も何度も武雄
市の一般会計に繰入れが行われているかと思うわけですが、これまでもこれからもやられ
ていただいております。

競輪事業、本当に頑張っていただいておりますが、これの今の状況はどのような形に推移
しているのか、答弁いただきたいと思います。

○議長（吉川里己君）

黒尾営業部理事

○黒尾営業部理事〔登壇〕

おはようございます。一般会計繰出につきましては、平成 30 年度から令和 2 年度まで各
年度 8,000 万円ずつ、令和 3 年度は 2 億 8,000 万円を繰り出しております。

令和 4 年度は 3 億 8,000 万円を繰り出すよう予算化しております。

令和 5 年度以降は、各年度 8,000 万円以上の繰り出しを計画しているところでございます。

○議長（吉川里己君）

9 番上田議員

○9 番（上田雄一君）〔登壇〕

今の答弁をこう、表でも出しとったらもっと皆さんね、競輪事業がどんだけ頑張っているというのがよく分かるんじゃないかと思うわけですけどね、口頭だけで残念です。

競輪事業もしっかり繰入れしていただいて、頑張っているのはもうお分かりかと思えますけど、選手の宿舎等の施設整備の計画があるかと思えますけど、そこら辺の今の状況がどうなっているかお伺いします。

○議長（吉川里己君）

黒尾営業部理事

○黒尾営業部理事〔登壇〕

モニターをお願いします。

（モニター使用）先ほど議員さんが指摘されました、一緒に、一般会計と施設整備基金の表を作っておりましたので、その分になります。

施設整備基金につきましては、この平成 28 年度から基金を積み立てておりまして、令和 4 年度は 4 億円を予算化しているところでございます。

令和 4 年度末で積立額が総額 36 億円となり、そのうち 34 億円は令和 7 年度から着工予定の選手宿舎等整備に充てる計画でございます。

なお、令和 5 年度以降は選手宿舎等を除く設備に充当する計画もございます。

○議長（吉川里己君）

9 番上田議員

○9 番（上田雄一君）〔登壇〕

作っとうなら、最初から出してくださいよ。ぜひお願いします。

もう、やっぱり頑張っていただきようけんですね、応援してやりたいなと思うところもあって。

そしたら、この競輪事業と直接的には関わりはないかも分からないんですけども、コロナ禍の中でも、今の競輪場にたくさん皆さんがお越しにいただいている場所があるわけです。それが、BMX 場ですよ。

ここが、この写真は出来上がった当初の写真です。

すみません、最近の写真を入れ損なっております。これが出来上がった当初です。

ここでたくさんの皆さん、子供さんたちが遊びに来られているんです。ストライダーだったり、BMX だったり、たくさんの皆さんがお越しをいただいている中で、ありがたいことに利用頻度が高いものですから、この斜面というか、こぶですね、これがもう低くなったりと、なおかつ一番いけないのは、もうとにかく路面の泥がもう剥がれてきて、とにかく雨水、要は、水はけが悪過ぎて、雨が降った翌日は、ほぼほぼ使えんとですよ。

そういう声をたくさんいただいておりますので、ぜひこの雨天後の排水、排水がもうかなり悪くなっているということで、この施設の環境改善を早期にお願いをしたいわけです。

けど、御答弁願います。

○議長（吉川里己君）

黒尾営業部理事

○黒尾営業部理事〔登壇〕

議員御指摘のとおり、BMXコースの整備につきましては、前向きに検討してまいります。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

前向きに検討をお願いします。

もう競輪がこндаけ頑張りようとやけんですね、競輪場の施設整備をある程度、私は使うべきだと思いますので、もうぜひ今年度中とは言わんばってん、来年度中までには絶対もう実現してください。もう早期、もう一日も早く、もうすぐやりますという、逆に僕は答弁をほしかったぐらいですから、ぜひお願いをします。

それでは、最後の質問になります。

部活動の地域移行について。

これは初日に古賀議員も質問をされておりましたけれど、この働き方改革を踏まえた部活動改革ということで、過去に私も、何度も何度もこの質問をさせていただいておりますけれど、結局は外部指導者の積極的な雇用か、社会体育との連携しかなかやろうもんというような質問もずっと常々させていただいております。

その上で、市内中学校の部活動の方向性というのは、古賀議員とどのような答弁が変わって、——変わるかな、——もうちょっと詳しく整理、方向性を答弁願いたいと思います。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

おはようございます。中学校部活動の地域移行のことでございますけれども、現在、国のほうで部活動の在り方を定めたガイドラインの改定案が公表されております。

この改定案には、地域の子供たちは学校を含めた地域で育てるということが、そういう意識で進めていきなさいというようなことも示されているところです。

そういったことから、先日開きました検討委員会でも、議員御指摘のとおり、外部指導者の確保、部活動の地域での受皿づくりというようなことで、市内の社会体育団体、あるいは文化芸術団体の御理解、御協力は不可欠というようなことで、意見が出されたところでございます。その方向で今後検討してまいりたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

部活動改革は、締切りというか、当初は令和8年やったですかね。8年ですかね、お尻が何となくこう、目標値があったかと思うんですけど、それがそもそもなくなったわけですか、何となく消えたんですよ。

その上で、その部活動改革の中で、武雄市はもうとにかく、この2本柱のどちらかを進めていくしかないんじゃないかというところの説明をさせていただいたんですけど、今の中学校の部活動は、今の指針からいくと、平日の2時間以内、休日3時間以内とかで、土日どちらかは休みを取らんといかんって、もう何を言っているんだろうなというところで、学校教員のその働き方改革と、生徒が望む能力向上、多分、うちはどちらかというところと体育会系の子供しかおらんもんやけん、もう絶対に納得せんはずでもんね。

ただ、でも、どちらかというところ、文化系の子になったらこれでもいいのかなと。文化系じゃなかね、そこそこ日頃からスポーツをすればと。この辺がちょっと、ということで、とにかく社会体育の積極的な連携を密に取っていただきたい。

それで、なおかつこの部活動改革のためには、部活動の社会体育化というのも、一つ、学校の先生たちが集まってやっていくという手も一つあるんじゃないかと思うわけです。

とにかく、この部活動改革のために国は何をしてくれるのかというのをもっと、やはり突き上げて、部活、子供たちがとにかくこの改革に関わっている年代って、今の、例えば小学校5、6年生、4年生ぐらいから5、6年生の子たちが、たまたまこの年に当たったけん、もう何か訳分からんことになっとうというような形にならんで済むように、ぜひ積極的に前に進めていただきたいと思いますが、これについて答弁、答弁もろうてよかですかね、最後。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

移行期の子供たちが、本当にどうしたらいいか分からないということだけは絶対避けなくてはなりませんので、そういうことで進めていきたいと思えます。

○議長（吉川里己君）

9番上田議員

○9番（上田雄一君）〔登壇〕

以上で終わります。ありがとうございました。

○議長（吉川里己君）

以上で9番上田議員の質問を終了させていただきます。

ここで、モニター準備のため10分程度休憩いたします。

休 憩 10時54分

○議長（吉川里己君）

休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問を続けます。

次に、16番松尾議員の質問を許可いたします。御登壇願います。16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

（全般モニター使用）皆さんこんにちは。最後の質問ですね。あと、しばらくお付き合いをお願いします。

議長より登壇の許可をいただきましたので、16番松尾初秋の一般質問をさせていただきます。

執行部の答弁は、簡潔で正確にお願い申し上げます。

まず、プラごみの分別の新法が本年の4月に制定され、分別が努力義務になるような話ですが、義務を求めるならば国からの予算措置が伴わなければならないと思いますが、予算措置はどうなっているのか、まずもってお尋ねします。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

国、県の支援については、十分には示されておられません。

分別収集及び再商品化に係る委託料について、国の特別交付税措置の検討はされておりますが、現在、具体的には決まっていないという状況でございます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

やっぱり示されていないとか、まだ決まっていないとかですよ、やっぱり義務というならば、これは絶対、予算ばつけんばいかんですもんね、はっきりですよ。銭ばつけんぎ話にならないでしょうが。義務を求めるならばですよ。

実は、容器包装プラスチック回収の廃止の、経過についてお尋ねしていくんですけどもね。

これ実は、私が平成29年3月議会でこれ提言したわけですよ。そして、平成30年4月に廃止をしたと。一番の問題は、分別委託費用がかかり過ぎているという話がありました。

それで、ちょうどそのとき、伊万里で西部クリーンセンターができたので、もう熱回収、サーマルリサイクルで取り組んだらよかじやなかですかというふうな話をして、今さっき話したように、4月から廃止してそういうふうにしたんですけども。

質問として、回収を廃止した経過については、これでよかでしょうか、どがんでしょうか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

廃止した経緯でございますが、分別委託経費が焼却処分費用と比べて非常に大きかったこと、分別したプラの約70%が実質焼却処分となっていたこと、そして、加えて先ほど議員おっしゃられましたように、さが西部クリーンセンターにおいては焼却による熱回収が可能になったということなどから廃止に至っております。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

今、経過を聞いたんですけどね、質問としてですよ、今回、また再開するというふうになった場合、問題点は私はたくさんあると思うんですけども、考えられる問題点、何ですか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

大きな問題点としては3つございますが、1つ目は、分別による市民への負担が大きくなること。2つ目は、全てのプラが対象となり分別が複雑になること。3つ目は、回収する量が増えるため、受け入れる事業所が必要になることなどが考えられます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

国策なのでね、進めんばいかんかも分かりませんが、予算もついとらんし、何もついとらんでしょう。でも、私は、安易に進めるべきでは、安易に戻すべきではないと思うわけですよね。

確かに、プラスチックのケチャップとか、マヨネーズとか、あがんと水で洗ろうてですよ、はっきり言うてやぐらしかですよ。だから、私はそういうふうに思います。

質問として、今後の方針どがんですか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

現在行っております、先ほど言われました熱回収、いわゆるサーマルリサイクルについても有効であるとは思われますが、今後、国の方針と併せ、佐賀県西部広域環境組合の構成市町と協議検討していくということになります。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

ゆっくりと、私としては進めていただきたいと思いますけれども。

次に、野焼きについてでございます。

これは、実はずちの近所の人を今からしますけど、野焼きで、農業とかそういうので生じた場合は、やむを得ん場合は野焼きをしていいというふうになっていますよね。そして、武雄市としてはですよ、何ですかね、配慮してくださいと、洗濯物とか何かに配慮してくださいということで済んでおるんですけども。

その人は、昼1回燃やして、警察が来たりしてですよ、これはいかんということで、夕方ですよ、夜っちゅうか、夕方——ちょうど去年の今ぐらいの話ですよ。今ぐらいの話ですよ。もう夜も、夜っちゅうか、夕方ぐらいから燃やしよんさったけん、温度が上がらあじですよ、煙だらけになって、そのときもまた警察も来たんですよ。煙だらけになってですよ。

その人は真面目な人ですよ。もう配慮をして、夜、燃やしよんさったわけですよ。

そんなときも警察も来ました。私も近所やったけん、いやあ、警察官もあんまり知んされんとですよ、燃やしたらいかんですもんねの一点張りですよ。いや、そうじゃないですよと、そんなときも説明しました。農業とか、林業とか、そういうので生じた場合は、やむを得ん場合は燃やしてよかごとなつとうですもんねって、提示しましたよ。そういうことがありました。もう悲惨な話ですよ。

昼燃やして、巡査も来たりなしたりって、警察も来たけんですよ。夜燃やしとんさあとですよ、夕方ぐらいに。温度の低かけん、燃えじですよ、もう煙もくもくですよ。臭いもしました。

そのことどう思いますか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

配慮していただいたにもかかわらず、こういった事例になったということは、非常に残念なことだと思います。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

本当に残念な話ですね。私は、もう決めました、もう配慮はせんって。はっきり言うてですよ、配慮もしようぎ、さばけんすもん。百姓しよってですよ。

考えてみてくださいよ。昼の日中に、天気の良いときは洗濯物ありますよ。草とかも燃えやすいですよ。でも、今まで配慮してましたよ。

でもね、よくよく考えたらですよ、これ、自分の考え今から言うんだけど、私は周囲

に配慮するのやめました。それはね、家の近くに山とか、畑とか、田んぼとかああぎですよ、そこに家があったら虫の害とか、農薬の害とか、煙の害とか、こういうのは想定内ですもんね。よくよく考えたら想定内ですよ。そいばってんですよ、その代わりといっちゃなんですけどね、緑とか、自然とか、田園とかが享受できるわけでしょう。私はそう思います。

もう山とか、畑とかあったら、田んぼとかあったら、虫の害とか、農薬の害とか、煙の害とか想定内ですもん。それが嫌ややぎですよ、もう街に引っ越ししかなかとですよ、街に。そがんとのなかとこにですよ。

私はそう思いますけど、どがん思うですか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

市の立場からはお答えはできません。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

それはお役人さんやけ、それは言われんでしょうね。それは分かっとうですよ。言われんですよね。

でも、やっぱりですよ、私も自分の考えを繰り返すんだけどね、やっぱり虫の害とか、農薬の害とか、煙の害とか想定内ですもんね。もうそれは引っ越ししかなかと思う。

やっぱり、世の中ね、もっと広い心で寛容な世の中にならんばいかんとですよ。一回一回、警察官の来たり、なしたいしてですよ、そんな世の中じゃ駄目ですよ。私はつくづく思います。

もうこれ以上このことは言いませんけどね、私の意見をしっかり言いました。

次に、公共下水道についてお尋ねしていきたいと思えますけども、ちょっと写真見せます。

実はこれ、新しか武雄の、今度は何ですかね、市民体育館ですかね、今、建設中ですね。実はここに、下水道の管が今度初めて入るという話を聞いてますけれども、これ、間違いないですか、どうですか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

議員おっしゃるとおり、現在建設中の武雄市民体育館については、区域外流入という形で下水道に接続するようにしております。

今回、初めて武雄川を横断することになります。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

実は、これが私の地区ですね、花島地区ですよ。今度できるここはここですよ、市民体育館ですね。

そして初めてですよ、今までは武雄川の南側は、公共下水道は管はなかったですよ。今まで北側だけですよ。それでもこの武雄川からこっちはなかったけど、この浄化センター、これ最終処理のところですよ、公共下水道の。これはうちの地区にああとですよ、今までは。この地区にあってですよ。分かりやすく言うに、迷惑施設ですよ。そがんとっけあったわけですよ。

それで、今までは公共下水道の恩恵を受けられんやったわけです。最終的に、広げてくれるという話になってくるんだけどね。

これですよ、実はね、これ、要するに、公共下水道の恩恵を受けられんやったけんですよ、少なくとも下水路の整備ばしてくださいって私はずっと要望して、今、1、2、3、4いっぱいしてもらいました、代わりに。迷惑施設だけうちに来てですよ、その代わりに、もう下水路ないとんしてくんさいって言うて、してもらいました。

これ、何年間でどんぐらい、何キロぐらいで、幾らぐらい使いましたか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

整備実績でございますが、花島永島地区排水路整備事業として、平成 16 年から平成 26 年まで整備をしております。

総延長が 2,125.2 メートル、工事費が全体で 7,864 万 3,000 円となっております。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

7,800 万円ぐらい使うてですよ、下水路ないとん整備をしてもうたわけですよ、今までずっと。それはよく分かりました。

ほんで、今度ですよ、こういうふうに、ここに管が来ますよね。武雄川から南部のほうに来るわけですよ。

やっぱり私が住んでいる花島地区なんかに、どんどん下水路ばですよ、下水路じゃないですね、下水管ですよ、これをやっぱりずっと広げていっていただきたいと。

その可能性についてどがんですか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

公共下水道は全体計画でエリアを定めて整備しており、現在、花島区は浄化槽区域として整備をしているところでございます。

下水道整備区域の変更自体は、地元の意向を確認し、事業要件等を全て満たせば可能かというふうに考えます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

いろいろ満たせば可能という話は今、答弁いただきました。

そう言いながら、私の家が、じゃあ、あんた公共下水道にかたあかんたちゅうぎ、やっぱりすぐはかたらんですよね、確かに。お金のほかあけんですよ。

ただ、やっぱり建て替えとか何かあった場合、こう来たら便利かですもんね。

だから、そういう意味では、あんた、あんた議会で言いよんさったけん、あんた、あんたんとこ一番にかたらあじゃあって言われてもちょっとね、はっきり言うてですよ、ちょっとかたいえんともあるか分かりませんが、来てもらったら便利になるしですよ。

ちょっとお尋ねなんですけれども、浄化槽ば設置してるところですたいね、そがんところは何か簡単に管ばつけて簡単にできるという話も聞いているんですけど、その辺はどがんですか。

○議長（吉川里己君）

山口環境部長

○山口環境部長〔登壇〕

浄化槽を設置している建物は宅内配管が既に完了しておりますので、そういう意味では、比較的簡単にスムーズに接続ができるというケースもございます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

いずれにしても、花島区の下水道の整備を広げて、ぜひお願いしたいと思います。

こいはこの辺で終わって、次の質問ばしていくんですけども。次は市役所庁舎でありますけれどもね、これ、どういう話かって、今、話ばするんですけどね。

議会事務局で私が普通の会話ばしよったわけですよ。そいぎ、職員がもう、委員会が横であってですよ、声の聞こえようですよちゅうて何回も注意をされたわけですよ。恐らく職員が言ったんだけど、議員が言わせたかも分かりませんよね。（「それは議員が言わん」と呼ぶ者あり）いや、それはよく分かりません。

ただね、はっきり言って、私は不愉快ですよ。私は隣の部屋でしゃべようとですよ、普通

の会話ですよ。叫んだり、おめいたりしとうわけじゃなかとですよ。そうでしょう。叫んでもおらんとですよ、おめいてもおらんとですよ、普通の会話でしょうとですよ。

もう、はっきり言ってですよ、私の生存権の問題ですもんね。生存権の問題ですよ。もう不愉快ですよ、はっきり言って。

それでね、実は、これは以前の、平成 29 年 3 月の武雄市議会の一般質問の抜粋で、46 ページから 47 ページですよ。そのときは昔の庁舎ですよ。そのとき、今度建て替えるぎですよ、同じことあったんですよ、前の庁舎でも。実は、委員会が隣同士にあつて、私が話よった声が隣の委員会のテーブルに入りようですよって注意受けました。

それで、もう建て替えるときはもう考えてくださいよっちゅうことで、ここに書いちゃあですね。立派な答弁をありがとう。ここはあんまり関係なかつて、「では、新しい庁舎の防音対策は大丈夫かという質問ですけど、どがんですか、まだできてないんですけど」って言うたわけですよ。

そんなら、答弁がですよ、「新庁舎につきましては、現在庁舎の課題点、問題点、こういうものをきちんと整理し、その対策を取るというふうに考えております。当然、会議室の遮音性、これにつきましては高い構造といたしたいというふうに考えて、現在施工しているところでございます」という答弁をもらいました。

質問として、会議室の高い遮音性はどんな遮音性なんですか。

○議長（吉川里己君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

モニターで示されているとおり、庁舎建設に当たっては、会議室の壁や移動型の仕切りの壁等についても一定の遮音性を有する構造ということになっております。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

何がなってるんですか、なつとらんじゃなかですか。私はごつとい言わるとですよ、声のたつたか、おめいたり、おらんだりしたわけじゃなかとですよ。それなのに普通の会話しよって、がん言わるとですよ。

もう、庁舎建て替えてください。

質問です。

○議長（吉川里己君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

庁舎建て替えの考えは持ち合わせておりません。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

では、防音性を高めるようなですよ、造作んごたあ工事ばしていただけないでしょうか、どがんでしょうか。

○議長（吉川里己君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

改修につきましても、多額の費用が発生するということから、改修の工事を行うことも考えておりません。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

考えてない、考えてないって、じゃあ何ができるんですか、武雄市は。何を考え、あれも考えてない、これも考えてないって、何ができるんですか。

私は思うたばってんですよ、こういうふうなことを言わないように職員教育、徹底してくださいよ。

○議長（吉川里己君）

山崎総務部長

○山崎総務部長〔登壇〕

議員が御不快に思われたのであればおわび申し上げます。すみませんでした。

今後も職員に対しては、適切に接遇するように指導してまいります。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

もうはっきり言って、これ、私の生存権に関わる問題ですもんね。大問題です。よろしくお願いしますよ。

次に、戸別受信機の裁判についてでありますけどもね、私は自分の考え言います。

この前の水害のときも、戸別受信機があって大変助かったという話も聞いております。

敗訴という残念な結果になりましたけれども、質問として、敗訴した判決内容について詳しく確認したいと思います。

○議長（吉川里己君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御質問の判決内容でございますが、令和4年11月18日に佐賀地方裁判所にて第1審判決が言い渡されております。

内容につきましては、武雄市は小松氏に対し4億548万6,620円を武雄市に支払うよう請求せよ。

もう一点は、訴訟費用は武雄市の負担とする。

以上2点について判決が出されております。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

こいですよね、佐賀新聞。令和4年11月19日付の佐賀新聞。ここのところですよ。ちょっとここのところが気になりましたので、ちょっとアップしますけれどもね。

「有線方式で整備された受信機は、2階に避難する際に持ち運びができない短所があり、契約時点で議案が提出されていれば、無線方式になった可能性がある」と指摘した」と。

はっきり言って、私は可能性ないと思います。それは、有線方式は確実につながるといふ長所もああわけでしょうが。だから、私は、どがん考えてもこういうのはないと思うし、一番大事なのは、やっぱり、その確実に音の流れることですもんね。音の流れんやったり、途切れ途切れしよっちゃ、らちあかんとですよ。

だから、こういうふうに変わることもあるかも分からんように書いてますけどね、こういうことは私はありえんと思うですけどね、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員言われました長所に関する内容でございますが、先ほど議員御紹介いただきました長所の内容もあろうかと思えます。また、この長所または短所、こういった内容についてはいろいろな状況等もあろうかと思えますし、一概に言えない部分でもあろうかと思えますので、お答えは控えさせていただきます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

まあ期待した答弁とは違いますけどね。

あと、ちょっと気になったのがあったんですけどね。受信機の設置を盛り込んだ当初予算が議会に可決されているという事実がああですよ。そして、武雄市では過去の契約と照らして、システム構築ということで議会を通さなかったちゅう話もあります。そがんやったとかなと思えます。

仮に、物品購入とか工事請負とかで議会に提出されていれば、私は通ったと思うんですよ。全会一致にはなりませんよね、反対者が何人さんかおんさったけん。恐らくね、全会一致にはならんばってんですよ、賛成多数で、私は議会は通っていたというふうに思うわけですよ。自信と確信を持って、あの場面におりましたのでね、そういうふうに思います。

でもね、中にはですよ、市民の人の中には、例えばその物品購入とか、工事の請負とかですよ、議会ば通らんやったけんこそ、こういうふうにシステム構築に変えて、議会ば通さんやったっちゃかなかろうかと、思っている人もいますけどね。はっきり言ったら絶対そがんことなかとですよ。市民の人はそがんふうに思うとうさあか分からん。でも、そういうことは絶対あり得んと思えますけれども。

質問といたしまして、物品購入は工事の請負として議会を提出されていたら、議会の議決が得られると思えますが、どがん思うんさあですか。

○議長（吉川里己君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

議員御質問の見解についてでございますが、内容的に、想定する内容のことになるかどうかと思いますので、お答えは控えさせていただきます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

自信はあったと思えますけどね、まあいいでしょう。

まずは自分の考え言うばってんですよ、市のほうも控訴をするということで。私も控訴を前提にしていきたい。

特に、やっぱり弁護士の充実強化ですよ。今は、たしか鬼橋弁護士さん1人でしょう。だから、もっと充実強化して裁判に勝つように頑張りたいと思えますけどね。なかなか難しいと思えますけどね、勝つのは確かに難しいか分かりませんが。

いずれにしても、質問としては、弁護団の充実強化についてどがんでしょうか。

○議長（吉川里己君）

諸岡総務部理事

○諸岡総務部理事〔登壇〕

ただいま議員から御提案ありました充実強化でございますが、御意見として頂戴させていただきます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

戸別受信機のとはこのぐらいですよ、充実強化して活用に頑張る、難しいか分かりませんが、よろしくお願いします。

次に、教育であります。

自分の考えば言うばってんですよ。暴力で世の中を変えていくことはあつてはならないと思いますよね。そういうことは絶対あつたらいかんと思うわけですよ。

そこでお尋ねですけども、学校教育の中で暴力についてはどのように教育を行っているんですか。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

議員御指摘の暴力によって世の中を変えていくというようなことは断じて許されるべきことではありません。教育においてはいかなる暴力も認めないと。そして、生命、命、そういったものを大切にする教育を行っているところでございます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

実は、新聞記事は、例の安倍さんの件ですけどもね、ある新聞記事なんですけれども、安倍晋三首相（67歳）が、「銃撃事件は2022年7月8日、奈良市で参議院の街頭演説中だった安倍氏が、同市内に住む無職の山上徹也容疑者（事件当時41歳）に手製の拳銃で撃たれて死亡した事件である」と。「首相経験者が銃撃されて死亡した事件は戦後では例がない。多くの聴衆の前で、昼、要人が狙われた事件だということもあって、内外に大きな衝撃が広がった」という話でありました。

そして、動機が、「母親が破産するきっかけとなった宗教団体を国内で広めた安倍氏だと考え、安倍氏を狙ったなどの供述」と。

ある新聞の記事によりますと、「山上容疑者は多額の寄附金で家庭が崩壊した教団を韓国から招き入れたのが岸信介首相。だから、孫の安倍氏を殺したと供述した」という話がありました。

私は、その旧統一教会、今は何ですかね、現世界平和統一家庭連合ですかね。私は何も関係なかとばってんですよ、何かね、この問題ですよ、何ですかね、世の中が、旧統一教会が攻撃されようばってんですよ、山上容疑者の思いがもうかないようわけですよ、結果的には。暴力で世の中変わいようわけでしょう。本当にですよ、暴力で世の中が変わっているとよく思います。

そして、こういう暴力の肯定とかテロの肯定ですよ、こがんことは政治家もマスコミも誰も言わんとですよ。誰々代議士がそのパーティーにはおんさったの、おんされんやったのっ

て、そがんと私はどがんでんよかと思うわけですよ。

でね、確かに、その献金問題もありますよね。でも、今の時期にこれをやったら、この統一教会を攻撃したら、もう山上容疑者が神聖化されますよ、テロが正しくなりますよ。だから、今の時期にやっぱり、するのは私はおかしいんじゃないかなというふうにつくづく思うとですよ。（「そうだ」と呼ぶ者あり）ありがとうございます。

そういう声は本当はないんですよ。今、統一教会はどうなんだとか、そういうのばっかりでしょうが。もうおかしかとですよ、この世の中がですよ。

これについて、教育長さん、どがん思うですか。

○議長（吉川里己君）

松尾教育長

○松尾教育長〔登壇〕

いろいろな報道があつて承知しておりますが、立場上、ちょっとその先は言わないようにしておきたいと思ひます。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

ばってん、教育長、よく考えてんですか。今、だって、暴力で世の中変えたらいかんと言ひよんさつたでしょうが。変わいようやなかですか。そがんとも答弁できんとですか。

市長、どがん思ひんさあですか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

7月の、安倍元総理が暴力によって命を失われたと。本当にこれは痛ましい、痛恨のことであつて、こういうことが二度とあつてはならないと思ひています。

私も暴力で世の中を変えらるゝというのは到底許されるものではない、人命を暴力で奪うということも許されるものではないというふうに思ひています。

だからこそ、やはり民主主義というのが、原点にもう一回戻らなきゃならないと思ひますよ。民主主義って何かというと、いろんな意見があつていいと、それらを尊重しながら話し合ひをして、そして、合意を目指していくと。これがやはり民主主義だと思ひていますので、ここは、私は教育においてもしっかりと教へていくべきであると。そして、何より私たち大人がもう一度、やっぱりしっかりと立ち返つて、メディアも含めて考えていかなければならないと思ひています。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

いや、私です、本当にこの一連の経過を見て、もう今、私はここの何も、統一教会なんか何も関係なかとですよ。関係なかばってんですよ、今の時期にですよ、確かに献金問題はあります。それはちかっと何年か後にせんぎですよ、今はここを攻撃しよったら、もう正当化されるやなかですか、山上容疑者が。

そういう声がね、本当に国の政治家もないし、マスコミもそういうこといっちょん聞かんとですよ。もう、おかしゅうしてたまらん。何で誰でもこれ、おかしかて言わんとかなってという思いがあったけんですよ、今回、一般質問として取り上げました。

次に、最後の質問でございますけども、新幹線についてでございます。

私もこの前、新大村まで新幹線乗りました。感想を言います。速いなと思いました。それで、次に、トンネルが多いなと思ってですよ、多くの方が確かにこのままずっとつながれば便利だろうなと思ひんさあろうにやあということは私も思いました。

そこで、実はこうですもんね。この西九州新幹線が武雄温泉、諫早、長崎だけ止まるのは7本ですよ。武雄温泉、新大村、諫早、長崎止まるのが12本、全部止まるのが25本ですよ。

ということは、武雄は始発駅やぎ44本止まるですよ、みんなが。止まるちゅうか、こいから始まるですたいね。嬉野は25本しか止まらんとですよ。新大村37本、諫早44本、終点長崎44本。終点だから、そうでしょうね、44本。

何で諫早が44本全部止まるのかですよ。何でかなと思うんですけども、なぜこい停車するんですか。この理由なんですか。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

諫早の全便停車の件でございます。これにつきましては、JR九州に確認をした事項ではございませんけれども、諫早駅から、これは島原鉄道への接続がされております。雲仙、島原といった観光地があること、そして、大村方面との交通の結節点ということから、観光客及び沿線住民の利用ニーズがあるというふうに判断をされているというふうに考えております。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

確認で聞きますけれども、市長は、るるフル規格派ということでは言われていますけれども、今日もそういう答弁もありましたけれども、確認で聞きます。間違いはないですね。お願いします。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

はい、間違いございません。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

ということは、今後、全線、もしフル規格になった場合は、諫早は全部止まるけんですよ、武雄温泉も全部止まあごたあ、運動ばせんばいかんと思うわけですね。そういう確約を取れば、そういうふうに変わっていくんじゃないかなと思うわけですね。

全線がフル規格になった場合、武雄温泉は佐世保線との分岐点やけんですよ、そういう意味においては全線止まるように、やっぱりその J R 九州に確約は取っていただきたい。そがんすつとがやっぱりね、市長が幾らフル規格派といってもね、動かんばいかんとですよ。

私は、武雄市民が今の便利さが落ちらんなら、私はフル規格でもよかとですよ。こがんふうになつたらいかんとですよ、嬉野温泉のごと 25 本しか止まらんすもんねって、いかんとですよ。

でも、可能性としては、諫早も今答弁があったように、島原鉄道との分岐点だから 44 本止まいようちゅうことはですよ、可能性としては、武雄温泉駅でも佐世保線との分岐点になるので全部止まるような運動ができると思うんですよ。

そういう確約を J R と取っていただきたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

現時点におきまして、まだ決定事項が何もない中で、確約を取るというお約束はできません。ただ、議員御指摘のとおり、武雄温泉駅も長崎、佐世保線との分岐点、西九州新幹線との分岐点ということもございまして、有田、佐世保、ハウステンボスという観光資源のほうも佐世保線のほうにはございます。

今後の流れ次第でございまして、そういうふうな動きになった場合については、当然何らかの動きをするということも考える必要はあるかと思えます。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

あのね、そんなことになってからじゃなかとですよ。なあまえにちゃんと確約は取ってがんですよって進めていかんぎいかんでしょうもん。それが一番大事かと思うですよ。

私はどっちでもよかとですけどね。ただ、武雄市民がね、困らんなら、私はフル規格の派に変わってもどがんでもよかとですよ、はっきり言って。今までは一生懸命、あれ言うてきましたよ。でもね、やっぱり大事なのはね、今、武雄市民が困らんことせんばいかんさ決まってからしてどがんするですか。その前にせんばいかんと思いますけど、その点についてどがんですか、質問です。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

今後、フル規格についてはいろんな協議がなされていくと思いますけれども、少なくとも、フル規格になったからそれが原因で武雄の利便性が大きく落ちることがあってはいけないと思っています。

そういう意味で、特に佐世保市、そして、有田町を、佐世保線沿線というのを持っているのは、私たちのある意味強みでありますので、そこでしっかりと話をし、とにかくフル規格と併せて、今後利便性が下がらない、そういった運動もしていく必要があると考えています。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

それで、こいですよ、在来線、今ちょっとありましたけれども、リレーかもめが 34 本ですね、リレーみどり 10 本で、44 本ですね。今の新幹線にリレーする分ですね。そして、みどりが 12 本で、ハウステンボスが 10 本ですよ。そういうふうになっていますけども、ということは全部で 64 本、これに間違いなかですか。まず確認です。

○議長（吉川里己君）

古賀営業部長

○古賀営業部長〔登壇〕

議員御指摘のとおり、間違いございません。

○議長（吉川里己君）

16 番松尾議員

○16 番（松尾初秋君）〔登壇〕

新しい斉藤大臣の発言の要旨ということで新聞がありまして、こいはいですよ、前赤羽一嘉国交相が「在来線を残して運行を確保するよう国交省の責任で JR を説得したい」ということを前大臣は言いよんさったわけですね。この現斉藤大臣も同じ認識だということば言うんとんさあわけですよ。

ということは、在来線もそのまま残してくださいということで、この在来特急の 22 本は

ですよ、これももしフル規格になった場合、残すような運動ばですよ、もう市長ね、これをちゃんと確約は取って、全線がフル規格になる場合でも並行在来線の現行を維持するようにJR九州に確認を取っていただきたいと思えますけどね、なかなか難しいかも分かりませんが、努力していただきたいと思えますけどね、この22本、どがんでしょうか。

○議長（吉川里己君）

小松市長

○小松市長〔登壇〕

長い目を見たときは、フル規格は必要と。ただし、目の前で、特にほかの在来線も含めて、普通電車も含めて、やはり学生中心にそこは利用が多いと。人口流出防止である、あとは定住ができる環境であるためには、やはり在来線の維持というのは、ここも併せて必要であると思っています。そのあたり、本当はいろいろ交渉材料にできると思うんですけども、いずれにしても大事だと。

大臣もあそこまで言っていていただきますので、今後、やっぱり市長会でも、武雄、嬉野でフル規格という話はしていますけれども、そこに併せて、そういった在来線の維持というのも今後セットで強く要望していきたいと思っています。

○議長（吉川里己君）

16番松尾議員

○16番（松尾初秋君）〔登壇〕

いずれにしても、大臣もそがんふうな話ばしよんさあけんですよ、やっぱりここが一番大事かとかだと思わけますよね。

この2点をですよ、今、最初言うたところですね。全部、全線もしフル規格になったときには全部武雄に止まると。そして、並行在来線もそのまま残すって。そがんならば、私も、もうフル規格で頑張ろうちゅう気持ちになあですよ、はっきり言って。ここが一番大事などこなんですよ、私にとってはですよ。

その予算の問題は国の話というか、県の話ですもんね。もし全線フル規格になっても、都市計画区域だけが、武雄が負担になるからですよ、もうそういうところはなかと思うですよ。お金は関係なかと、武雄は。

一番大事かとは今言った2点ですよ。2点をしっかりと進めてもらいたいと思います。

以上で質問終わります。

○議長（吉川里己君）

以上で16番松尾議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全て終了いたしました。

これにて散会いたします。

散 会 11時47分

